

定年後開業税理士の日誌 2

平成28年明けると急に忙しくなった。



1月中旬に小学校の租税教室の講師の依頼が税理士会より来た。租税教室は税務署か学校の先生が行うものだと思っていたが税理士も派遣されるとのことであった。依頼なので引き受けた。しかし小学生に税金について話すのは初めてなので、租税教室とはなにか、税金とは何かから勉強した。そして租税教室はアニメ DVD を交えてなんとか無事終了した。

次に税理士会より確定申告相談の各団体への派遣、コールセンターへの派遣要請がきてそのための研修と勉強に追われた。それと同

時に税理士会を通じて商工会議所関与法人の業務移管を依頼され、そのための引継ぎ、法人との契約、会計ソフトの調整などにも追われた。

また友人経由からも依頼があり土日もなく働いた。働いたから収入があるわけではなく、基礎の構築である。つまり法人の基礎や過去のデーターをソフトに打込む作業、電子申告の申請作業である。しかし初めての作業であり毎日試行錯誤である。また依頼を受けた法人が会社法以外の法人（協同組合や農事組合法人等）や新設法人でその法律的な知識も勉強した。

ここで役に立ったのが、ネットで書籍を検索し、アマゾンですぐその書籍を配達してもらったことである。

次に会計ソフトに会計伝票を入力したがこれも大変である。まず慣れていないので入力間違いがある。入力間違いを探して法人が提出した現金預金残高に合わせるのに2，3日を要する。また会計ソフトの調整（法人に合わせた勘定科目の設定や試算表の作成など）も大変であった。

そこで一部の法人には、経理担当者に会計ソフトの入力作業をやってもらうことにした。これはJDLソフトにブックキーパーソフト

がついており、法人で入力し、そのデータを送信してもらうのである。これは初期設定さえしておけば大変効率がよく便利である。

また、法人担当者からも快く協力してもらい非常に助かった。

そんなことをしているうちに12月決算法人の申告時期がきた。

税務署勤務時代は完成して提出された申告書をチェックするだけであつたが、自分で作成するとなると細かいことや、気がつかなかつたことなどが沢山あり、毎日解説書を傍らにおき申告作業を行った。

ソフトの操作には幾度なくJDLのインストラクターにお世話になつた。

